

## 熊本 S.J.C.D 例会抄録

演題	「他院でのインプラント治療 予後不良例に対するフォロー症例」
演者名	前田 明浩
日付	2012年6月26日(火)
Key Word	1. グラフトレスコンセプト 2. ガイドサージェリー 3. インプラントセレクション

### 抄録

2010年10月に上顎のインプラント上部構造に不具合を訴え当院に来院された患者様の症例を発表致します。

患者様は2009年9月頃、某歯科において上顎に対し、5本のインプラントを植立し、即日に固定式上部構造を装着したそうです。

しかし、約1年後には上部構造が動き、歯肉も腫れてきたため心配になり、当院を受診されました。

診査した所、上顎に植立された5本のインプラントは全てディスインテグレーションを起こし、周囲骨は大きく吸収されていました。

ご本人は、どうしても総義歯ではなく最終的には固定式の補綴物を希望されていました。残り少ない上顎の既存骨や大動脈弁閉鎖不全症等の全身リスクもある中で、可能な限り患者様の期待に添えるような治療を行ったつもりです。

具体的には、応急処置後既存のインプラントを除去、不良組織搔爬

上顎、総義歯装着し骨の治癒を待ち、グラフトレスコンセプトにより、既存骨に **Simplant** サージガイド(骨支持 **Type**) を使用し上顎に6本のインプラントを埋入しました。

その際、インプラントセレクションとして、上顎結部の骨質不良部位に対しては、ノーベルアクティブという良好な初期固定を期待できるインプラントを使用しました。他の4本はスピーディーグルービーというエクスターナル **Hex** の物を使用しました。最終補綴は2012年4月12日に入り、現在大変満足していただけています。

この症例を通じて、インプラント治療における治療オプションや治療スキルについて考えてみたいと思います。